



志學館大学大学院

心理臨床学研究科

心理臨床学専攻〔修士課程〕

2025



志學館大学
SHIGAKUKAN UNIVERSITY

本研究科について

志學館大学大学院心理臨床学研究科は心理臨床の専門職である公認心理師/臨床心理士を養成する大学院です。2005年の開設以来多くの修了生を鹿児島をはじめとする地域に送り出してきました。公認心理師や臨床心理士になるにあたって大学院レベルの教育が求められるということはそれらの資格がより高度な専門性が求められるということです。本大学院においても複雑多様化した現代社会の人々の心の健康に関わる専門家を育てるために、豊富な知識と経験を持つ教員が丁寧な指導をおこないます。みなさんも志學館大学大学院でともに学びませんか。

志學館大学大学院心理臨床学研究科 研究科長 木下昌也



本研究科の特色

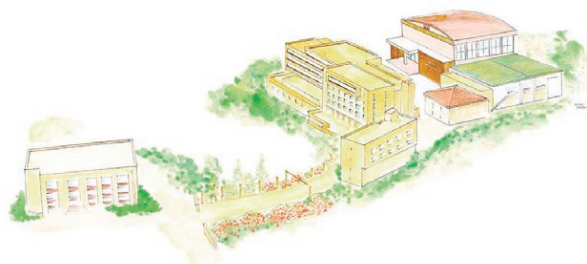
W 資格対応
(公認心理師・臨床心理士)

**実習システム
の充実**

**手厚い卒後の
サポート**



学内実習(ケースカンファレンス)



W資格取得—公認心理師/臨床心理士の両資格に対応

本研究科は、国家資格公認心理師養成大学・大学院の認定と、日本臨床心理士資格認定協会第1種指定大学院の認定を受けています。高度な心理専門職である公認心理師・臨床心理士を育成する養成機関であり、所定のカリキュラムを修了することで、両方の受験資格を得ることができます。

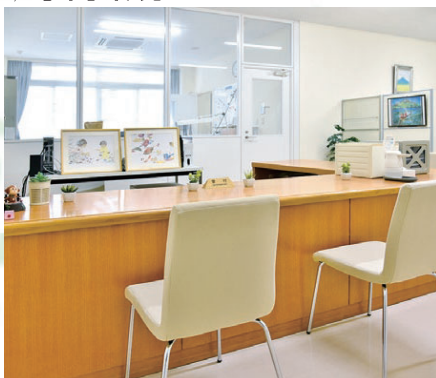
心理専門職の主要5領域「医療・教育・産業・福祉・司法」、それぞれの分野のエキスパートによる講義・演習が揃っており、心理査定、カウンセリングや各種心理療法など、修了後すぐに現場で働ける臨床力を養います。学部の心理臨床実践コースとの連携を重視しており、学部生と大学院生が講義、演習、見学実習などで交流できるのも魅力の一つです。

充実した学内実習と学外実習

研究科附属の学内実習機関として「心理相談センター」「発達支援センター」を備えており、年間計約1200回の相談支援を行っています。大学院生は両センターで、300時間超の実践的な実習を積むことができ、公認心理師・臨床心理士としての臨床力を育む貴重な体験を得ています。

なお、九州の私立大学で学内に両センターを持つ大学院は本学だけです。本学の学生は、医療・保健領域11カ所、福祉領域7カ所、教育領域3カ所、司法領域2カ所からなる23の外部実習機関から実習先を選択し、複数の施設で実習を受けることができます。

✿学内環境



心理相談センター

家庭や職場、学校などでの対人関係の悩みや心の問題、不登校などを抱えるクライアントに対応します。各種心理的アセスメントに基づき、カウンセリング、プレイセラピー、箱庭療法、臨床動作法などクライアントに適した心理療法を行います。また、保護者や学校教職員への支援、関係諸機関との調整等も行います。



発達支援センター

子どもから高齢者まで生活にさまざまな困難を抱えた方やその家族などを対象に、心理臨床的観点からライフサイクルに応じた支援を行います。1対1の個別支援に加え、集団療育を通して、幼児や児童のソーシャルスキル向上や、思春期の子どもの育ち直しの場の提供、子どもを育てる保護者のコミュニティ作りを行います。学校教職員等へのコンサルテーションも行っています。



院生室1



授業の1コマ



授業の1コマ

手厚い卒後サポートで公認心理師・臨床心理士資格取得に向けバックアップ！



▲定期勉強会の様子

大学院在学中から修了後まで様々な研修の機会があり、修了後のサポートも提供しています。学外から講師を招いた研修会では、最新の臨床実践や研究をされている先生方からご指導を受ける機会が用意されています。公認心理師国家試験の合格率は、第6回公認心理師国家試験100%（全国では73.8%）〔令和4年度修了生〕、第7回公認心理師国家試験85.7%（全国では76.2%）〔令和5年度修了生〕、臨床心理士資格試験の合格率は、令和5年度臨床心理士資格試験72.7%（全国では66.5%）〔令和4年度修了生〕でした。臨床心理士は計176名誕生し、累計合格率は、81.8%です。修了生の合格に向けて、定期的に勉強会を開催し、盤石のサポート体制でバックアップしています。

研修会講師と研修テーマの一例（一部抜粋、講師の先生方の御所属などは当時）

- 山上敏子 先生（早良病院（精神科医）） 「方法としての行動療法」
- 村瀬嘉代子 先生（日本臨床心理士会会長） 「これからの発達支援に求められるもの」
- 松木邦裕 先生（京都大学大学院教授） 「入門 精神分析的理解と援助」
- 鴨志田祐美 先生（えがりて法律事務所弁護士） 「発達障害に関わるさまざまな専門領域の連携・協働」
- 鯨岡峻 先生（京都大学名誉教授） 「なぜ『関係発達臨床論』なのか」

修了後の進路

医療・保健 県立始良病院、阿久根市民病院、天草病院、いこまクリニック、出水病院、ウエルフェア九州病院、大口病院、鹿児島医療センター、希望ヶ丘病院、京都府立医科大学附属病院、熊本大学医学部附属病院、栗野病院、花倉病院、坂之上病院、相良病院、桜ヶ丘病院、三州脇田丘病院、大悟病院、武井内科クリニック、中川クリニック、西原保養院、福田病院、福山病院、藤元病院、松下病院、南九州さくら病院、メンタルホスピタル鹿児島、宮崎市保健所、やまびこ医療福祉センター、加治木記念病院 など

福祉 愛の聖母園、大渦福祉会、鹿児島県社会福祉事業団、鹿児島自然学園、友愛学園、育成センターコスモス、くしきの児童発達支援センター、障害者（児）通所施設アリス、大一会、天心寮、のびる下荒田、パソ児童館発達サポートセンターニーニョス、妙円寺こども園、八楽児童寮、いしずえ会、南さつま子どもの家、清心乳児院、いまきいれ子ども発達支援センターまある、たけのごキッズ、サランセンター など

教育 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野、宮崎学園短期大学、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、南九州市教育委員会、山口県防府市教育委員会 など

公務 鹿児島県職員（心理職）、宮崎県警（警察事務）、自衛隊（心理職）、鹿児島中央児童相談所、鹿児島県こども総合療育センター など

進学 慶應義塾大学大学院博士課程、東北大学大学院博士後期課程、鹿児島大学大学院博士課程、九州産業大学大学院博士課程 など

修了生メッセージ



メンタルホスピタル鹿児島
公認心理師・臨床心理士

竹ノ内 瞳さん

平成18年度 心理臨床学研究科 修了

大学院では、「己を知る」ことの大切さを教わりました。学び始めの頃は、知識やスキルを習得することに精一杯でしたが、自分の長所や考え方も含め培ってきたことを振り返ることができるようになったことは、今の仕事の在り方にも活かされていると実感しています。切磋琢磨した同期との関係性は、現在もかわらず続いている貴重な宝物です。現職では15年目を迎え、精神科医療チームの一員として主に心理面接・心理検査の業務に携っています。2019年度に、鹿児島県臨床心理士会（現 鹿児島県公認心理師・臨床心理士協会）の会長を拝命し、2期目を迎えました。県民の皆様の心の健康に寄与するべく、最善を尽くしていきたいと考えております。

在学生メッセージ



志學館大学 大学院
心理臨床学研究科2年

積 星妃 さん

鹿児島大学教育学部初等教育コース卒

学部時代のボランティアで保健室登校の児童と出会い、悩む子どもの助けになるための支援を学びたいと本大学院に進学しました。 本学には心理相談センターと発達支援センターが併設されており、臨床の現場で活躍されている先生方の手厚いサポートのもとで多くのケースを経験できる等、充実した環境が整っている点が魅力です。 多様な授業や実習を通して対人援助職としての知識を増やすだけでなく、院生や先生方の様々な考え方を聞くことで、自身の成長にもつながり人生においても役立つ学びを得られていると感じています。心理学や自分に向き合える貴重な時間を大切に過ごし、臨床現場で活躍できるような実践的な力を培っていききたいと思います。

教員紹介

臨床心理学や心理学の各専門領域にわたって多数の優秀な専任教員がそろっており、医療・福祉・教育分野など、修了後の就職に十分配慮したカリキュラム編成を行っています。カウンセリングや心理療法、心理アセスメントなど、現場にすぐ役立つ技能が修得できるよう、実技指導に力を入れています。研究の指導体制も十分に整えられており、これまでに多くの学生が国内や海外での学会発表を行っています。



教授 木下 昌也（研究科長）

発達心理学・学習心理学・行動学
児童期から青年期にかけての行動の成熟に関する研究



教授 山喜 高秀

臨床心理学・発達臨床心理学
発達障害、情緒障害、虐待を中心とする心的外傷など



教授 飯干 紀代子（学長）

神経心理学・生涯発達心理学・高齢者心理学
高次脳機能障害への支援、認知症の人と家族の支援など



准教授 白井 祐浩

来談者中心療法・精神分析的心理学療法・教育臨床
PCAグループの効果、セラピスト訓練、心理統計など



教授 大島 英世

臨床心理学・臨床動作法
子どもの発達、子育て支援、臨床動作法に関する研究



准教授 花形 武

臨床心理学・心理療法
箱庭療法に関する研究など



教授 神薗 紀幸

社会心理学・対人行動学
青年期の適応過程に関する研究



講師 志賀 希子

臨床心理学・健康心理学
ストレス、うつ症状、メンタルヘルスケアなど



教授 近藤 諭

社会病理学・コミュニケーション論
貧困、社会の変化による生活支障に関する研究



講師 野元 明日香

臨床心理学・障害児心理学
特別なニーズのある子どもやその家族への支援など



教授 野上 真

産業組織心理学・社会心理学
モチベーション論、リーダーシップ論



講師 畑田 惣一郎

臨床心理学・医療心理学
認知行動療法や森田療法を活用した介入や研究など



教授 松本 宏明

臨床心理学・家族療法・ブリーフセラピー
依存症（ネット・アルコール）、心理検査など



講師 前野 明子

臨床心理学・応用行動分析学・障害者就労支援
発達障害児者の家族支援、障害者の就労支援など



教授 胸元 孝夫

心身医学・内科と行動療法をベースとした心身医療
慢性疼痛、慢性疲労、糖尿病、過呼吸、うつ病など



助教 川津 優

臨床心理学・認知行動療法
子どものうつ、不安、心身症に対する心理支援など

修士論文のタイトル（紀要掲載の論文を抜粋）

- 聞き取りにくさが聴く認知スキルとレジリエンスに及ぼす影響
- セラピストが自己理解を深めるプロセスの検討 ― 自己理解を深める多様な経路に着目して ―
- スーパービジョンにおける心理臨床初学者の内的プロセスの変化について
- 間主観的アプローチによる自閉症児と関与者の関係性及び行動の変容
- 学童期自閉スペクトラム症児の母親に対する心理的支援の検討 ― インタビュー調査を通して ―

特待生制度

入学者選抜試験における成績が上位の者には、特待生としての資格が付与されます。

入学金免除

本学学部卒業後、引き続き入学する者は、入学金及び後援会入会金を免除します。

教育訓練給付制度

受給条件を満たす方が本学大学院へ入学した場合、本学大学院に支払った学納金の一部に相当する額を修了後にハローワークから教育訓練給付金として受給することができます。

給付金の詳細については、ハローワークインターネットサービスでご確認ください。

https://www.hellowork.mhlw.go.jp/insurance/insurance_education.html



長期履修学生制度

職業や家事に従事しながら生活スタイルに合わせて、通常2年間の修学年限を3年または4年のいずれかに変更できます。

交通・アクセス

- JR「南鹿児島駅」から徒歩10～15分
- 市電「南鹿児島駅前」から徒歩10～15分
- 鹿児島交通バス「志学館前」バス停から徒歩5～10分

入試日程

第Ⅰ期 2024年10月26日(土)

第Ⅱ期 2025年2月14日(金)

詳しくは令和7年度大学院募集要項でご確認ください。



資料請求・問い合わせ

志学館大学 入試広報課 entrance@shigakukan.ac.jp

〒890-8504 鹿児島県鹿児島市紫原1丁目59-1

TEL.099-812-8501 FAX.099-257-0308